

小児がんサバイバーにおける子宮機能、妊娠合併症、妊娠転帰の検討

Uterine function, pregnancy complications, and pregnancy outcomes among female childhood cancer survivors.
van de Loo LEXM et al
Fertil Steril 111:372-380, 2019

目的 小児がんに対する腹部骨盤部放射線照射が子宮機能、妊娠合併症や周産期予後に悪影響を及ぼすか否かを明らかにする。

デザイン・対象 腹部骨盤部放射線照射を受けた小児がんサバイバー (radiotherapy exposed childhood cancer survivors; RT-exposed CCs) 55 名、および年齢、妊娠歴でマッチングした腹部骨盤部放射線治療を受けなかったがんサバイバー (non RT-exposed CCs) 110 名と一般集団 110 名を対象としたコホート研究。

結果 未妊女性において、平均子宮体積 (四分位範囲) は RT-exposed CCs で 41.4 (18.6~75.5) ml, non RT-exposed CCs で 48.1 (35.7~61.8) ml, 一般集団で 61.3 (49.1~75.5) ml であった。RT-exposed CCs は一般集団に対して子宮体積が減少していた (odds ratio (OR) : 5.31, 95% confidence interval (CI) : 1.98~

14.23]。また驚くべきことに、non RT-exposed CCs でも同様の結果であった (OR : 2.61, 95% CI : 1.16~5.91)。経妊女性において、RT-exposed CCs では一般集団に比べて妊娠合併症 (OR : 12.70, 95% CI : 2.55~63.40)、早産 (OR : 9.74, 95% CI : 1.49~63.60)、低出生体重児 (OR : 15.66, 95% CI : 1.43~171.35) の割合が増加していた。RT-exposed CCs では non RT-exposed CCs に比べて低出生体重児 (OR 6.86, 95% CI 1.08~43.75) の割合が増加していた。

結論 小児期の放射線治療への子宮の被曝は、妊娠合併症のリスクを増加させ、妊娠転帰に悪影響を及ぼす。これらの患者では、妊娠前のカウンセリングおよび適切な周産期管理が必要である。

(東京医科歯科大学大学院生殖機能協同学 中筋貴史 抄)

妊娠初期の母体の脂質プロファイルは妊娠合併症や妊娠中および産後長期の血圧と関連するか？

Is maternal lipid profile in early pregnancy associated with pregnancy complications and blood pressure in pregnancy and longterm postpartum?

Adank MC et al
Am J Obstet Gynecol pii: S0002-9378(19)30527-7, 2019 Mar 30.

背景 アテローム性の脂質プロファイルは、心血管疾患の原因となるアテローム性動脈硬化の発症および進行の危険因子である。妊娠高血圧症候群の既往のある女性は、後年において高血圧症や心血管疾患のリスクが高い。妊娠中の脂質異常症がこれらのリスクに及ぼす影響は未だ不明である。

目的 妊娠初期の母体の脂質プロファイル、妊娠高血圧症候群、および妊娠中と産後数年の血圧との関連を明らかにする。

研究デザイン ジェネレーション R 研究の前向き出生コホートに登録されている 5,690 名の女性を対象とした。218 名 (3.8%) が妊娠高血圧を、139 名 (2.4%) が妊娠高血圧腎症を発症した。総コレステロール (chol)、トリグリセリド (TG)、HDL-chol、LDL-chol、レムナント chol、および non HDL-chol からなる脂質プロファイルを妊娠初期 (中央値 13.4 週) に評価した。また、収縮期血圧と拡張期血圧を妊娠初期・中期・後期、および産後 6 年目

と 9 年目に測定した。

結果 妊娠初期に TG もしくはレムナント chol が高値の妊婦は、妊娠高血圧腎症の発症リスクが高かった。一方で、妊娠高血圧はどの脂質指標とも関連しなかった。総 chol、LDL-chol、non-HDL-chol、そして特に TG とレムナント chol の値は、妊娠中と産後 6、9 年目の血圧値と正に相関した。妊娠初期の TG とレムナント chol は、産後 6、9 年目における高血圧症のリスクと関連した。

結論 妊娠初期のアテローム性脂質プロファイルは TG に富むリポタンパク質代謝の障害を反映し、妊娠高血圧腎症や妊娠中の血圧と関連するのみならず、産後長期にわたる高血圧症とも関連する。妊娠初期の脂質プロファイルは、将来の高血圧症と、ひいては心血管疾患のリスクのある女性を見極めるのに役立つ可能性がある。

(東京医科歯科大学周産・女性診療科 廣瀬明日香 抄)